

中部ブロック会報 第38号

2023年度中部ブロック研究会 2024年2月22日(木)～23日(金)

開催: 中部学院大学中津川キャンパス

【2023年度・中部ブロック研究会を終えて】 ブロックリーダー 河合 晋(岐阜協立大学)

今年もこうして会報をお届けできることを大変嬉しく思います。ご多忙の中、ご発表、ご参加いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。

さて、中部ブロック研究会が対面で開催されたのは、4年ぶりです。コロナ禍では、前中川ブロックリーダーのもと、リモート開催のノウハウが蓄積され、定着しました。その間のリーダーとしてのご苦労に敬意を表します。一方で、久しぶりの対面開催で感じたことは、普段会えない研究者の仲間と議論を交わし、懇親会では日頃の愚痴を言い合い、「楽しくてためになる研究会」とする中部ブロックのモットーを具現した時間となったことです。今後とも、中部ブロック活性化のために、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

研究発表① 【保育科における「選択科目:文章表現」の課題】

○富田 宏(中京学院大学短期大学部)

本発表では、1年次の実習において学生が書いた日誌に対する実習園からの指摘及び修正を概観し、文章表現に関する課題を検討した。実習園からの指摘及び修正として、1)漢字や送り仮名の誤り、2)不適切な表現(～させるといった強要の表現、話し言葉や方言の記述)、3)子どもまたは保育者の行為を具体的に書けていない(5W1Hの欠落、子どもの気持ちや保育者の意図がくみ取れてない)、4)活動名や絵本、手遊びの歌のタイトルの記憶違いといったものが見られた。1年次前期の「選択科目:文章表現」では、これらの課題に重点を置いて講義を設計することともに、学生の学習姿勢として自分が書いた文章の読み返しや省察を学修プランナー等の取り組みを通じて習慣化することが必要だと考えられる。

研究発表② 【短期大学におけるビジネス実務教育の取組み—サービス接遇検定準1級の指導から—】

○上野 真由美(名古屋女子大学短期大学部)

本報告はサービス接遇検定に焦点を当てて、短大生におけるビジネス実務教育の取り組みの準1級指導活用例である。昨今は対面を意識したビジネス実務教育が求められており、サービス接遇検定準1級の指導がこれに合致すると考え導入した。結果は開講初年度ながら多くの学生が合格し、準1級25名、2級22名、3級1名の学生が合格し、合格率は準1級78%、2級59%、3級100%であった。さらに多くの有名企業に内定を得た。対面に慣れ落ち着いて試験に臨めたことで合格を得る結果となり、サービス接遇検定準1級の導入によるビジネス実務教育の必要性があらためて確認できた。

授業後の感想では肯定的な声が多く聞かれその意義と効果が確認できたが、今回はサービス接遇検定準1級の導入に留まりその改善プログラムにまで及んでいない。今後は検定合格結果と成績評価の関連性についても考察し、ビジネス実務教育の授業プログラム改善へと繋げていきたい。

研究発表③【北陸地域におけるビジネス実務教育の現状と課題～ビジネス実務の特質を踏まえて～】

○岡野 大輔(金城大学)

本発表は、北陸地域の大学及び短期大学におけるビジネス実務教育の現状と課題に関する報告である。ビジネス実務(教育)の基本的性格として、「課題解決」志向性、「実践」志向性、「学際」志向性の3つを指定し、これらの観点から、ビジネス実務教育の範疇に入るとされる北陸地域の経済・経営系の各大学・短期大学のカリキュラムの変遷と現状を概観した。特に、ビジネス(秘書)教育を行っている短期大学のカリキュラムと、これをベースとして設立ないしは改組された4年生大学のカリキュラムの変遷をたどることは、ビジネス実務(教育)の固有性・独自性・主体性とは何か、ビジネス実務(教育)を固有の研究対象として把握し、その性格や構造、機能など将来的な有り様を考察する一助となりうると思われる。

研究発表④【デザイン思考を用いたグループ指導と成果物の評価】

○川瀬 真弓(岐阜大学)

本発表では、理工学系大学院教育におけるデザイン思考を活用したグループ活動と成果物との関連性について報告した。デザイン思考を利用した研修あるいは授業設計と成果物の創出は一定の基準を満たす必要があるものの、指導法や評価方法が確立されているとはいえない。本研究では、現在筆者が授業で実施している指導法がデザイン思考力の向上や成果物との関係にどのような影響を与えるかを検証し、また、講義やグループでの討論活動を通じて学習者が自由記述文で何を示しているかを分析し、その結果を報告した。

発表後の質疑応答では、「論理性の高い人ほど良いアイデアを出すのではないか」といった意見や、「成果物を評価する際の基準はどのようになっているのか」といった質問が寄せられた。今後もデザイン思考を用いたグループ活動の指導法や評価方法について更なる研究を行い、研修に応用できる新たな知見を得ていきたい。

学生発表

①総合型地域スポーツクラブにおける組織運営の現状と課題

ー中京学院大学クラブの事例からー

川淵怜央・神尾拓真(中京学院大学経営学部4年)

②Alma Linux 物語と体験

坪井雅樹・信岡咲羅(愛知東邦大学経営学部2年)

③岐阜市の農作物直売所における販売実態

佐藤里帆(岐阜大学社会システム経営学環3年)

シンポジウム【大学教育における教学IRの役割】

1. 実践報告（30分） 報告者：大須賀元彦（中京学院大学）
2. パネルディスカッション

コーディネータ：手嶋慎介（愛知東邦大学）

パネリスト：西川三恵子（九州共立大学） 堂野崎融（九州共立大学）

松井慶太（愛知東邦大学キャリア支援課） 大須賀元彦（中京学院大学）

本シンポジウムは「大学教育における教学IRの役割」をテーマに、大須賀（中京学院大学）が実践報告（小規模私立大学における教学IRの実践報告－中京学院大学教学IR室の事例から－）を行った。その後のパネルディスカッションでは、手嶋（愛知東邦大学）のコーディネートの下、パネリストの西川（九州共立大学）、堂野崎（九州共立大学）、松井（愛知東邦大学）、大須賀がそれぞれの立場から討論を進めた。中でも教学IRの観点からの中途退学除籍予防や入学前教育の在り方に関して各大学の現状や課題に言及することで議論を深めた。またパネリストの共通認識として教職協働に基づく組織間、部署間連携が教学IRを推進するために必要不可欠であることが明らかとなった。一方、聴衆からはAIを活用した教学IRなどについて質問が出るなど、パネリストと聴衆との間でも活発な意見交換が行われた。

お知らせ①【第43回全国大会について】

大会統一テーマ『Society5.0 時代を見据えたビジネス実務』

<大会日程及び会場> 2024年6月8日(土)～9日(日) 安田女子大学

1日目は、総会と講演①「Society5.0 時代を見据えたビジネス実務教育」、研究発表が行われます。2日目は、講演②「Society5.0 時代の中で最先端テクノロジーがもたらす変革とシンギュラリティを見据えた教育」が行われます。詳細は決まり次第、全国大会のご案内(第2号通信)でお知らせいたします。是非、ご参加ください。

お知らせ②【中部ブロック研究助成について】

- ・個人研究テーマ1件につき、3万円の助成を行う（最大2件まで）。
- ・2024年度中部ブロック研究会（2025年2月予定）及び2025年全国大会（2025年6月予定）で研究発表をすることを条件とする。

※お問い合わせ kawai@gku.ac.jp（岐阜協立大学 河合）

お知らせ③【学生発表の旅費交通費補助】

学生発表のための旅費交通費が1万円を超える場合は、最大1万まで補助する（最大5人まで）。